

彼方「かなた」

校長通信
H24.6.22
Vol.15

【学力向上&「共生の学び合い」】

全校集会で子ども達に伝えたかったお話です。

「伝説の学校」の今年度の研究主題は、「自主的に課題解決する生徒の育成」です。副題は「『全員がわかる・できる授業づくり』を通して」です。

自分から問題を解決しようとする意欲を大切にする自主的な学びや「わかった!」「できたという」学習の達成感、勉強の楽しさを感じる生徒を学校中にあふれさせたいのです。

そのためには、「知りたい」「わかりたい」「できるようにになりたい」という学習に対する素直な心の声を「教えて!」「どうすればいいの?」という実際の問いに変えて周囲に発信することから始めなければなりません。

そして、その心の声に「いいよ!」「という簡単ですが心の温かさが伝わる返事で答え、学び直す関係を作っていかなければならないのです。「教えて!」「いいよ!」が言える関係を授業の中につくることが、「自主的な学び」のスタートになるのです。

「自分が納得するまで聴き続け、相手が納得するまで説明し続ける」という共に学び合

う関係(「共生の学び合い」)を授業でつくりたいのです。

学校教育目標「自主貢献」に迫る授業とは、「教えて!」という言葉が、「いいよ!」という学び直しを引き出す「共生の学び合い」そのものなのです。

そのために私たち教師は、「つなぐ力」を身につけていかなければなりません。「隣の人に聞いてごらん」「写して(真似して)いいよ!」「グループで確認して!」というつなぐ言葉を授業の中で沢山投げかけなければなりません。学習課題を工夫しなければなりません。

学習形態を工夫しなければなりません。適切に評価しなければなりません。そうして授業そのものを変えていかなければなりません。

先生が説明するだけの講義式の授業ではなく、一時間の授業の課題を明確にし、生徒が自主的にその課題を解決する授業、全員が「できた」「わかった」と言える授業に変えていきたいのです。

しかし、先生だけ頑張ってもだめです。生徒の皆さんが本気で取り組まなければ学力向上にはつながりません。

授業中は、グループで学習する機会を多くします。グループ学習のルールを確認します。

① グループでも最初は一人で課題に向かう。
② 「教えて」と言われてから学び合う。

③ 話し合う声のボリュームを考える。
三つの約束をみんなですべて守ってグループ学習を

湖北中の特色にしていきましょう。

次に授業の大きな流れを考えます。

課題を提示されたら、直ぐにグループで学び合うのではなく、まず一人で課題に向き合い、考えて欲しいのです。5分ほど考えてもわからなければ、「教えて!」と友だちに聞き、理解するまで聞き続けて欲しいのです。逆に「教えて!」と聞かれた人は、快く「いいよ!」と答えて、友達が納得するまで説明して欲しいのです。答えが出せただけの理解ではなく、自分で理解したことを他の人にわかるように表現できる(本当の理解ができる)まで学び直して欲しいのです。

そして、授業でわかったら、自力でできるまで一人で復習しなければなりません。部活動でも同じです。一人でイメージトレーニングをしたり、素振りをしたり、自分でできる工夫をする人が強くなるのです!

家庭学習用のワンデーワンページを活用してください。家庭学習に取り組んでいない人は、毎日三十分復習することから始めてください。今より必ずできるようになります。

能力の差が成績の差となって現れるのは、そんなに大きくありません。ところが、意欲の差は、二十倍にも三十倍にもなって成績に現れます。みんなですべて声を掛け合い、本気で湖北中の学力を向上させてみませんか!「学び合い」は、「写本」と同様に驚くほどの結果が出ます!